

令和3年度 第2回磐田市魅力産業支援会議 内容及び会議録

1 日 時 令和3年10月27日（水） 15時00分～17時00分

2 場 所 磐田市役所西庁舎 304.305会議室

3 出席者 磐田市魅力産業支援会議委員 10名
事務局（経済観光課、産業政策課）

4 内 容

- (1) 開会
- (2) 議題 新磐田市産業振興計画の素案について
- (3) その他
- (4) 閉会

5 意見等

議題：新磐田市産業振興計画の素案について（計画の全体構成）

事務局：前回素案において将来像として「新たな価値を生み続けるまちいわた」を提案したが、再度検討した結果として、合併以来計画の基本としてきた将来像「魅力産業創造都市いわた」ここは変更せず「新たな価値を生み出す」という内容を副題という位置づけで追加した。その上で、将来像に対する簡単な説明を直下に加える形に変更した。

：将来像実現のため、4つの基本目標を立て、各施策を展開していくという構成は、基本的に変更していない。今回計画案では、各基本目標の数値目標を設定し、関連あるSDGsターゲットについても設定した。

：現時点で確定ということではなく、よりよいものに出来ないか引き続き検討を続けている。例えば計画の期間について、現状令和4年度から5年間としているが、アフターコロナも見据えて経営環境の変化が激しくなることや、市長任期が4年間であることなども踏まえ、期間についても柔軟に考え4年間とすることなども検討している。

：4つの基本目標の表現が、例えば「新たなプレーヤーが新たな価値を生む」となっているが、イメージがわかりにくいという意見もあり、表現をより具体的にすることであるとか、視覚的なところでレイアウトとかデザインについてもこれを変更する等々。

：各施策においても現状内容にとらわれない新たなアイデアも盛り込んでいくことも検討したい。

委 員：説明いただく内容説明の仕方に当たってのお願いを2点ほど。一つは主要事業の内容に関して具体的なイメージがわからないものもちょっとあるので、想定される事業、具体的にイメージできるような御説明いただけるとありがたい。もう一つ数値目標と効果のところ、設定内容の背景だとか数値の根拠みたいなところもあわせて御説明いただけるとありがたい。

委員：新たなプレーヤーとか、新たな価値とか挑戦的で、テーマとしていいと思う。「人が集い新たな価値を生む」の目標が、果たして観光交流客数でよいか。経済交流かもわからないし社会交流かもしれない。観光で来た人のみ訪れたと考えてしまうので。

委員：基本目標の順番を変えたのは何か理由が？

事務局：見せ方というところも少し意識をして、新たに盛り込んでいくところであるとか、力を入れていくところを視覚的には上にしていこうということで、入替えをした。

議題：新磐田市産業振興計画の素案について（基本目標）

資料 19.20 ページ 基本目標「新たなプレーヤーが新たな価値を生む」

事務局：基本目標に基づく方向性として、本市活性化のために広く視野を持ち、企業との情報交換や連携により、本市産業の活性化や新たな産業の芽を育てることに取り組む。

：数値目標は1,000平米以上の用地への工場の立地件数を目標

5年間で20件、ここ数年の平均件数を5年間に充てたものとなる。

：前後するが施策2、3について ものづくりのまちとして発展している磐田市では、今後も製造業の発展は欠かせないものであると考えている。民間開発事業者と連携して、新たな工業用地の整備を進めていきたい。施策3は、投資意欲のある企業に対し、投資に係る初期費用の支援のほか、法令手続のワンストップ窓口の支援等により、企業が操業しやすい環境を整備することで、引き続き企業の立地を推進していきたいと考えている。

：施策1について 新しい産業の芽を育てるということを計画したいと考えている。本市の産業活性化のため、首都圏の共有オフィス等を活用した首都圏に拠点を設置することを検討している。その中で企業誘致や、市内企業とのマッチング等により、市内企業の競争力の強化や、新たな成長分野の創出に取り組むと考えている。本日委員の皆様から夢のある産業を誘致するためにはどのような事業が考えられるか。御意見いただきたい。

委員：新たな産業用地の確保ということで、インター周辺、バイパス沿い周辺に工業用地を誘致していただきたい。外部からの誘致もあると思うが、手狭になって出るところを探している企業もあるのでサポートしていただきたいと思う。

事務局：磐田市として首都圏に情報拠点を設け、首都圏でのスタートアップ企業と、市内企業を結びつける等していきたい。域内でのスタートアップを育てることと、市外からスタートアップ企業に来ていただくこと。両方を考えている。

インター周辺は、都市計画マスタープラン上も、重要な産業拠点として位置づけられており、企業の皆さんからのニーズも高い場所。民間の工業用地開発を

活用して検討していく。インター周辺は調整区域が多く簡単に建物が建つ場所ではないので、そういったところを引き続き一緒に考えていきたい。

委員：数値目標について、基本目標ごとにあえて1つにした理由は、多様化する時代変化変革が激しいので、計画自体を柔軟に運用したいという解釈でよいか。5年累計で、用地の確保というのはどのように考えているか。

事務局：各施策の目標は、結果的に1番大きく市内産業に貢献できる部分というところで、代表的な数値を一つ上げている。用地の確保だが、個別の開発だとか、あいている遊休地があれば情報収集して、企業の皆さんに提供していく。

委員：数値目標のところで、5年平均という説明について補足を。

事務局：令和2年が7件と記載しているが、過去を振り返って年間2件というような数字の年もあり、平均年間4件というのが今までのペース。企業用地がない中、設備投資意欲が落ち込むような時期であっても維持していくような考えで年間4件、それを5年間で20件と設定した。

資料21. 22ページ 基本目標「今を革新し、新たな価値を生む」

事務局：方向性として、輸送機器の電動化、デジタル、ロボットを活用した中小企業の生産性向上、インターネットを活用した販路開拓等、意欲的な市内中小企業が、経営環境の変化に対応しても、継続的に成長していくための支援として、市のできることに取り組んでいきたい。

：現計画の数値目標について、大企業も含んだ輸送機器製造業における製造品出荷額としているが、次期計画ではより施策の効果を反映できる指標として、製造業全体に業種を広げ、ものづくり産業として、中小企業1事業者ごとの製造品出荷額を目標として設定したいと考えている。工業統計での中小企業（4人以上299人以下）の製造品出荷額を抽出し、企業数で割った数字。

：ものづくり産業のイノベーション支援について、EV化、次世代モビリティへの取組みに対して支援をしていく、あと関係支援機関等と連携し、デジタル化やロボット導入支援により市内ものづくり企業の生産性の向上を支援していきたい。また企業間の交流を促進することで、新たな事業展開や、企業単独では解決出来ない課題に対応する機会とするため、オンラインを使った関係機関と連携した広域での企業間交流、ビジネスマッチングに組みたいと考えている。

：中小企業等の競争力強化支援について、市内企業の新たな製品、サービス開発を支援、地域商社やデジタル技術を活用して本市の産品を全国や世界で販売できるような新たな販路開拓の支援にも取り組んでいきたいと考えている。カーボンニュートラル対応が、市内の中小事業者にも求められることを見据えて、必要な情報収集を行って支援策を検討していきたい。

：経営基盤安定化支援について、事業承継では後継者の不在、親族内の事業承継

が難しい現状。新たにM&Aによる事業承継についても、事例を創出して周知できるように、ネットワーク機関と連携して取り組んでいきたいと考えている。また、市内企業の経営安定化や円滑な設備更新のため、利子補給等を通じた財務面の支援にも引き続き取り組んでいきたいと考えている。

委員：新しいサービスの補助金等、商工会議所の会員もよく利用している。高度な知識技術を持って外部人材を活用するための支援策の検討、具体的に何かお考えがあれば教えていただきたいのと経営革新だけのためじゃなくてもいいのかなというのはある。

事務局：今を革新し・・・という基本目標については、主に市内企業の支援というところが中心。例えばデジタル化というような言葉がよく出てくるが、デジタル化することが目的ではなく、企業としては新しい技術を使って自社に貢献するための人材というのが課題。そこで新しい取り組み方が何か出来ないかというところ。副業兼業が社会の中で広く認められるようになってきている中で、市内企業に関わってくださるような、高度人材をうまくキャッチして必要ある企業に紹介したりお繋ぎしたりするという取り組みが出来ないか考えている。

委員：実際大手を退職されたOBの方とかそういう人材の方もいらっしゃると思うが、現状副業兼業で事例があるかどうかをお聞きしたい。

事務局：例えば首都圏の方で、こちらに来なくても、週何回かその会社のお手伝いをするような形の副業兼業をされている方が非常に増えている。スキルを持った方が中小企業のお手伝いをするという働き方をされているので、そういった人材とのマッチングを想定している。

委員：首都圏などいらっしゃるということで、でもやはりそういった方がどこにいるのか企業の方もわからないと思うので、うまく御紹介できるというかマッチングできるような体制がとれるといいと思う。

委員：CO₂削減をやるということで、一緒に策定プランをつくっていくことができるような人がいればマッチングしていくのは大変有効かと。
あとデジタルトランスフォーメーションについて、単純にこういう事例があるという発信をやっていくだけでも、結構簡単なことを経営に取り入れるだけで、経営の生産性を上げていくことができる。CO₂削減、カーボンニュートラルと一緒に、ここからの4年間はデジタルトランスフォーメーション活用して生産性上げる、無駄をなくしていく、あとはCO₂削減。そういったところもサポートされたら、企業もすごく助かると思う。
都会の方々が、ウェブを通じてというパターンは、市としてどんなツールを使ってマッチングするか民間に委託してという形になるのか、ポイントかなと思う。

資料23. 24ページ 基本目標「人が集い新たな価値を生む」

事務局：基本的な方向については、交流人口の拡大を図るため、スポーツ資源や地域資源を活用することにより、磐田市を訪れた方の市内回遊につなげていく。また、まちのにぎわいづくりや商業者ネットワークの構築支援などを通じて、商業サービス業の活性化を図る。

：数値目標としては、市内の施設、観光地などを訪れた観光交流客数の増加が市のにぎわいの指標になると考えており、コロナ禍前の目標値であった400万人に設定している。

：スポーツ、歴史等、地域資源を活用した新たな魅力発信について、磐田市の大きな魅力であるスポーツや特色ある歴史、文化を生かして、市内外から多くの訪問客を集めるための施策となる。合宿地やトレーニング環境など、スポーツ客に向けたPRに加え、ジュビロ磐田や静岡ブルーレブスなどと連携し、プロスポーツの試合開催時などに合わせてイベントを計画するなど、誘客と駅周辺でのにぎわいづくりを進めていく。また、歴史や文化に、ドラマ、アニメーションに絡めた地域資源の発信を進めていく。

：商業者のネットワーク構築支援とにぎわい創出について、駅北口広場の貸出しやジュビロードでの軽トラ市など、中心市街地活性化につながる取組を継続的に支援するとともに、広く市内の個店同士がつながり、協力してそれぞれの魅力を発信できるような支援や、外部からのアドバイスなどを活用したにぎわいづくりなどを考えている。

：観光レクリエーション施設を生かしたまちの活性化について、新型コロナウイルスによる外出自粛などにより見直されてきたマイクロツーリズムに着目、身近に磐田市を再発見できる事業や、体験型観光施設や文化ホールなどを活用した魅力の発信を考えていく。

委員：この数値目標のところで、R2：227万人を400万人にできるのかなというところは令和2年だからだと思うが、今から3年前の数値と比較するとどうか。

事務局：数値目標が観光交流客数でよいのかということだが、やはり交流人口がどれくらいかというところをはかる指標の一つとしては観光交流客数が非常にわかりやすいので、目標にさせていただいた。実際令和2年については227万人だが、その前では360万人ぐらいになる。

委員：ここは比較するところを360万としたほうが、誰もが理解しやすいと思う。サッカーやラグビーといった合宿について、積極的に考えると、1チーム1人3,000円の補助を出して、合宿誘致をすとか、具体的にやったほうがいいと思う。突っ込んだ投資が欲しいというか、そういった特典も必要だと思う。

：マイクロツーリズムの展開は、どこもやっていて、特に磐田では、観光といったらどこに焦点絞るかということ絞りが切れてないところが、弱いところだと思う。道の駅を見付に作ると訴えている人がいる。あれは確かに正解だと思う。見付がいいかわからないが、本腰入れて道の駅なのか、バス30台ぐらいが集まるようなところをつくらないと、どんどん他に行ってしまう。観光につ

いては、やはりその拠り所というか代表するところを、みんなが協力して施策をやらない限り、この観光交流客数を増やすのは難しいと思う。市がやるぞと言えばみんなついていく。

: 資源がもったいない。例えば桶ヶ谷沼。1時間半でトレッキングできるいい場所。獅子ヶ鼻もそう、登山は危ないけど、獅子ヶ鼻だったら事故を起こさない。市民の健康のためにみんなが楽しむような場にすれば、あれが一大観光ゾーンになりうる。何か掘り起こしてみるともっとにぎわいが出るのではないか。

委員：磐田市の大きな魅力であるスポーツ資源ということで、ジュビロサッカーや駅周辺でのにぎわいづくりとか、駅前に住んでる人としてはうれしいが、来る方は、基本的に電車より車が多い。インターチェンジとか高速道路、そういったところで発信を。市全体が受け入れるっていうような発信づくりを考えていったほうがいいんじゃないかと。駅周辺だけじゃなくて、観光で来るのは車が大半だと思うので。

委員：地域資源の活用の仕方、今までも委員会の場で皆さんが気にされているというところかと思うが、情報発信とかイベントとか、ちょっと一過性のものになりがち。少し長い目で見て、持続的に事業を行っていくためには、民間の力や知恵を活用したほうがいいと思う。例えば浜松城公園とか、フラワーパークみたいに民間に任せるものもあっていいと思う。

委員：昨今、eスポーツも大変注目されている。eスポーツの大会を通じて磐田をPRするだとか、そういったことも次の4年5年を考えると入れたらいいんじゃないか。

委員：今卓球の水谷選手たちののぼりが見付には結構出ているが、中泉ジュビロードには、余り出てないというお話があり、駅前商店街が区画整理の関係で、のぼりを立てづらい状況とのことで、そういったささいなところから見直していくのも、大事かと思う。

資料25.26ページ 基本目標「人財が新たな価値を生む」

事務局：基本的な方向については、創業しやすい環境づくりを目指すとともに、市内企業の人材確保や多様な人材活躍を促進するため、あらゆる世代に就労機会の提供と定着就労を促進し、次代を担う人材確保に取り組む。数値目標については、市内の創業が増えることにより、雇用の創出や地域の活性化につながっていくと考えているため、創業支援等事業計画に基づく市内創業者5年間の累計数250人とした。

: 創業起業への支援について、市や金融機関、商工団体など創業支援サポーターと連携した伴走型の支援や、ワークピア磐田内にあるコワーキングスペースはじまりのオフィスを創業拠点とした相談セミナー、交流イベント、チャレンジ販売など様々な支援により、創業しやすい環境づくりに取り組んでいく。

: 創業に向けた機運を高める取組みとして、首都圏拠点と連携したベンチャー企

業への訪問ツアーやコンテナ等を活用したチャレンジスペースの設置を検討していきたいと考えている。

- : 多様な人材の活用・就労の支援について、企業が求める分野に特化した人材活用への支援を検討していく。また、女性活躍推進法が改正されることに伴い、女性が活躍できる社会の推進や、高齢者、障害者、外国人等の多様な人材と企業とのマッチング機会の創出、情報発信等により、就労を支援していく。
- : U I J ターン就職の促進について、就活生を中心とした支援にとどまらず、就職氷河期世代を含む離職者や一般求職者など、求職者全般を対象に企業とのマッチングの機会を創出していく。オンラインを活用した交流会や、県西部地域広域で取り組むフェアなどの開催、スカウト機能を兼ね備えた就活情報専用サイト活用による情報発信力の強化などに取り組んでいく。同時に、市内企業の魅力発信のため、SNS動画等を活用した情報発信や職場見学等を実施していくことを考えている。

委員：新しいことへの取組みは、積極的に続けてほしいのと、既存のもの、この地域のものづくりに着目したときに、少量多品種、超短納期とか、こういったものづくりは残っていくと思う。そういう中で、10人以下の人数構成で仕事をされている会社が多い。変わるものも追求しなければいけないが、変わらないものづくりへの支援も検討いただければ。

- : 子供を保育園に預けながら仕事をしている立場の女性が多い。女性就労、企業内保育とかいろいろあると思うが、現実的に大きな大企業だったら出来るけど、我々300人規模でもなかなか出来ない。小さな企業さんでも、女性が働きやすい環境に近づけるためにいろんな人の意見を聞いて、実際の現場で意見をとり入れてもらえればいいと思う。
- : 採用のことで、昔ふうの面接をして、若い人たちを求めようとしてもなかなか難しい。やはり若い人たちの技術を使い、意見を聞きながら進めていくのがよいと感じた。

委員：磐田市がスポーツのまちイメージで、全国1に選ばれたということで、これはアピールできると思う。Uターンにしても、20代から60代、都内から来るのには静岡県ということで、チャンスが来ている。

- : スポーツに絡め、食材を集めて、大きいところ小さいところ横のつながりで、それをもとにスポーツとアスリートを結びつけて、例えばアスリートベジタブルとしてやる。ららぽーとにヤマハの電動自転車があるので、誘致されたパブリカ生産を見たり、グランドホテルまでサイクリングで行って泊まっていくとかそういう一つの流れを、ぜひ見に来てほしい。今回具体的にアスリートベジタブルという言葉がなかったのでもちょっと残念。5年前からずっと言っていて、まだ自分は言い続けるつもり。
- : あと、水がきれいだからトンボが200種類もいるということ。戦国の武将が甲冑にトンボつけた。これは絶対に後ろを向かず、前を向いて飛んでいくということも絡めたら。
- : 農業関係では、大手がいろいろ来て、すごい名プレイヤーが来ている。逃がさ

ないためには、横のつながりを持ってアスリートベジダブルに向かうとか、発信できればこのテーマにある魅力産業創造というところに結びつくかと思う。

- 委員：就労支援ネットワークの強化ということで、労働局ハローワークと磐田市さんと雇用対策協定を結んで、雇用対策をやっている。その中で、多様な働き方の促進ということで、女性活躍、高齢者、障害者と書かれています。若者の関係ではユースエール制度という認定制度があり、若者に優しい企業、そういう認定を厚生労働省がしている。今回森町に1社認定が出来、建設業で今までなかなか新卒者がとれなかったと。今年度は、専門学校生あと大学生、高校生、合計4人採用が決まった。ユースエールマークの効果と感じているところ。
- ：女性活躍もクルミンというマークがある。障害者についても「もにす」というマークがあり、認定することによって、今ある企業さんも魅力ある企業に変わっていくのではないかと考えている。
 - ：外国人がこの磐田市へ、ハローワークに年間で仕事を探しに来て登録する方が1万人ほどいらっしゃる。磐田市でどうやって外国人の方と共生しながら、一緒にやっていけるいい町にできるだろうというのを考えている。
 - ：先ほど言ったようなマークがある企業がたくさん出来て、もっと磐田市が魅力的なまちになるのかなと感じている。
- 委員：障害者の雇用活用はしやすいと思う。精神障害の方だと昼夜逆転しているような人が、農業など早朝やお昼前に終わるとか、そういう仕事が多いと思う。テレワークにすると機材導入に補助金、助成金があるというのも、一般の企業さんに知っていただけると多様な働き方が進んでいくと思う。
- 委員：多様な人材の活用のところで、ベトナムへ、ジョブフェア等ビジネスマッチングフェアに行かせていただいた。ジョブフェア的なものをぜひ入れていただきたいなど。実感として大変勉強になり社員も活躍している。
- ：女性活躍について、当社も出産ラッシュを迎え、みんな働きたいけど働けないという状況もある。この女性活躍の推進を就労支援だとか人材活用というところで助けていただけると、ほかのまちと差別化ができて、人が集まってくると思う。
- 委員：農業関係分野でいうと、今は朝収穫してそれを出すっていうことですが、朝行ったらもうそれを収穫して出荷できるとか、そういう新しい機械を開発してもらえれば、日本中に広がって世界に広がっていける。磐田発でつくれば、それが新たな産業を生むというか、そういうことができると思う。
- 委員：インター周辺、バイパス周辺での新たな産業用地の確保。ジョブフェアの話、女性活躍の場づくり支援、兼業副業による外部人材の活用。DXの件、CO2の削減についての話。就職における企業の認定制度、外国人との共生。サッカー大会等イベントに対する支援、人が集まる新たな観光拠点づくり、例として桶ヶ谷沼とか鶴が池の周辺保全と活用、イベントに係る交通拠点、駅周辺では

なくてそういった部分の確保、さらなる民間活力の活用。eスポーツを活用したプロモーション。少量多品種生産などものづくりから変わらないものへの支援工夫。スポーツのまちのアピール。アスリート、農のネットワークの活用。いろいろな話が今日意見として出された。

今、産業も1次～3次産業まであり、6次産業も今、農業が中心になって提唱しているが、4次5次もまだ明確にされていない。その近未来を先取りできるような施策を入れ込んでも面白いかなと思う。
